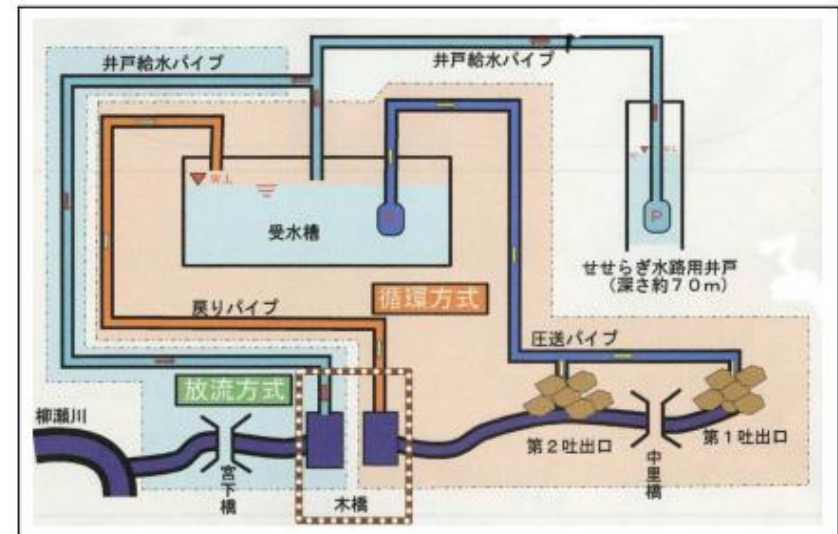


清瀬せせらぎ公園

子どもをはじめどなたでも安心して水辺に親しめる空間として整備されており、石田橋から中里橋までの、せせらぎ起点ゾーン。中里橋から宮下橋までの、親水散策ゾーン。ホタルが生息する宮下橋から柳瀬川合流地点の、生態散策ゾーンの3ゾーンに分け、それぞれ特色のあるものとしています。隣接する中里緑地保全地域はカタクリの群生地で、3月にカタクリまつりが開催されます。

清瀬せせらぎ公園で見られるホタルの成虫は例年5月下旬から6月下旬に見られ、中里緑地保全地域のカタクリは例年3月下旬から4月初めに見頃を迎えます。

空堀川の一部約510mに清流を復活させ、雑木林の保存とあいまって、水辺に親しむ散策路をかねた公園です。



せせらぎの仕組み図

資料：清瀬市建設部 緑と公園課「清瀬市立 清瀬せせらぎ公園パンフレット」

資料：清瀬市建設部 緑と公園課「清瀬市立 清瀬せせらぎ公園パンフレット」(一部)



清瀬市立 清瀬せせら公園 ゾーニング

金山調節池

金山調節池は、急速な市街化により、浸水被害が多い空堀川や柳瀬川中流域の治水安全度の早期向上を図るため、平成5年度に整備が完了した調節池です。

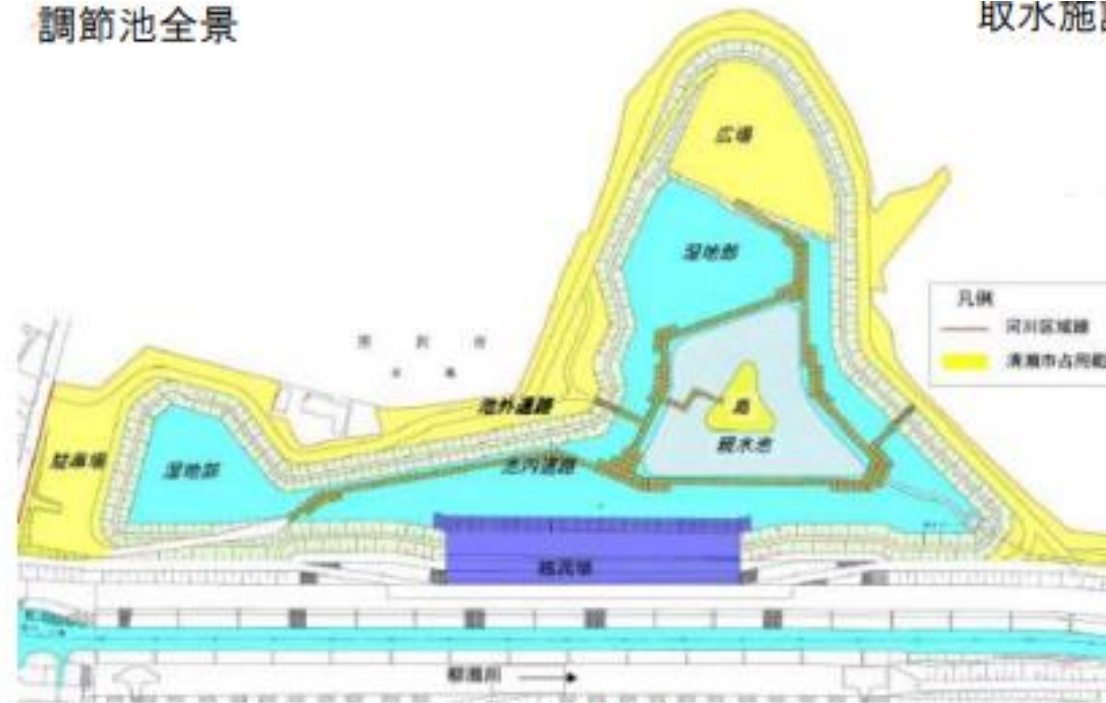
柳瀬川の水位が洪水により上昇した際には、越流堤を超えて調節池へ流入し、川の水位が低下すると排水ゲートから自然排水される仕組みとなっています。

調節池は、柳瀬川の段丘面下に位置しているため、湧水が豊富であり、湿地性の植生やヤナギ林等による立体的な緑空間に、多くの野鳥や昆虫、水生生物が生息しているビオトープとなっています。また、調節池内に散策用の浮棧橋を設置しており、柳瀬川に沿った散策コースとして多くの人々に利用されています。

柳瀬川は、埼玉県との境を流れる河川であるため、都と県で整備事業の施行分担を定めた協定を締結し、河川の改修工事を行っています。この調節池を設置したことで、調節池上流から空堀川合流点までの改修工事が可能となり、平成28年度に完了しました。

位置	清瀬市中里六丁目
完成年度	平成5年度
施設形式	掘込式
敷地面積(m ²)	31,500m ²
貯留量(m ³)	46,000m ³
越流堤延長(m)	100.0m
調節池の上部利用	ビオトープ

調節池全景



全体平面図

取水施設

金山調節池ワークショップ

金山調整池ワークショップは、ビオトープの多様な生態系を保存するため、市民と行政(東京都・清瀬市)が協働して、維持管理活動を主に、生態系の調査や観察会、地域や学校の環境学習や自然保護・啓発活動などを行っています。

■団体の概要

金山調節池は柳瀬川の洪水調整池として平成6年の完成後、豊富な湧水により湿地生態系が徐々に回復し、定期的な維持管理活動での保全が不可欠になったため、平成13年、清瀬の自然を守る会会員を主体に地域市民と行政の連携体として組織され、周辺河川域の自然保護・復元も含めた幅広い活動を、約70名の会員で行っています。地道な活動実績が評価され、平成7年に東京都知事、また平成8年には日本河川協会から河川ボランティア功労賞を受けました。

清瀬金山緑地公園

清瀬金山緑地公園は、市内では最も大きな都市公園で、その広さは約19,943㎡です。昭和61年5月にオープンして以来、四季を通じて多くの市民の皆さんの憩いと潤いの場として親しまれています。

市では、柳瀬川流域をスポーツ・レクリエーションゾーンとして位置づけ、サイクリング道路、市民体育館、下宿運動公園などを整備していますが、この金山緑地公園もそのひとつとして整備されたものです。

この公園のテーマは「武蔵野の風と光」で、武蔵野の自然の再現を図っています。園内全体には、ケヤキ・クスノキ・コナラ・エゴノキ・ウツギ・ヤマハギなどの樹木とクマザサや各種の野草が植えられ、武蔵野の雑木林が再現されています。そして、その間をぬうように、滝から落ちる水が小川となって流れ、その小川の川底には市有林の萌芽更新の際に伐採した樹木を焼いた炭を置いて水の浄化をしています。小川の水は園内中央に広がる池に注ぎ込み、その回りの湿地帯には花しょうぶなどが植えられて、それらを木道を歩きながら楽しめるようになっており、時にはカルガモなどの水鳥も羽を休めに集まっています。

また、公園の入口付近にはアケビのつるがからまるパーゴラ(日影棚)が、小川のほとりにはかわらぶきのあずまやが設けられ、休憩ができるようになっています。

